

〈サービスの質の評価に関する取り組みについての報告書〉

平成30年2月28日に、職員全員で「自己評価チェックリスト」に基づいた話し合いを行い平成29年度の福祉サービス内容評価を実施しました。

1…子どもの発達

◎ 発達と援助＝未満児クラスは、園児それぞれの発達を踏まえたグループ編成を行い、日々の生活の中で、子ども自身の力を十分に認めながら、一人一人の発達過程や心身の状態に応じた適切な援助や環境構成を設定するよう努めた。特に今年度は1歳児クラスの人数が例年を上回り、個々の発達にも開きがあった為、発達に応じたグループ分けをし、教育及び保育を提供した。

各年齢において必要に応じた個人記録（0、1歳児）や児童票は例年通り成長の経過を細かく記録した。個別支援が必要な園児には、桂堂学園より月1回、個別支援と成長発達の経過を見てもらう療育支援を行い、個々の状態や特性に応じて、保護者との面談に繋げ、密に話し合える場を提供した。また、診断を受け療育が必要とされる園児については、桂堂学園へ並行通園に繋げ、療育を受けられる体制が整っている。

2…教育及び保育の内容

[養護]＝登園時には、視診、触診、検温をしながら園児の健康状態を確認し、発熱や体調の異常に気づき、早めに対処するように努めている。健康状態が気になる場合には、朝礼や伝達ノートを通じて情報を共有し、体調の変化や保護者からの質問に対して担任以外の保育教諭でも対応できるように周知している。

また、情緒が不安定な園児に対し、担任以外の主幹又は保育教諭が必要に応じて抱っこやおんぶ等、個別に関わり愛着形成や信頼関係を築けるような働きかけを心掛け、情緒の安定を図っている。更に家族との連絡を密に取り、保護者との会話の中から状況を把握し、園児へのより良い援助を心がけた。

[教育]＝「異年齢保育」を軸として、園児が主体的に活動し、経験できるように様々な環境を提供している。子どもが自ら好きな遊びを選択できるような選択性保育や、教育面の向上を図りながら習熟度別の製作。また、ゾーン活動の充実を図り、行事等における取り組みの中で、成功体験を重ね、自己肯定感を高められるようにしている。

◎ 環境＝例年同様、年長児クラスが中心になり畑での野菜栽培を行っている。春先には、職員の家族の協力を得て、耕運機で畑を耕した。園児が植えたい野菜の聞き取りをし、トマト、枝豆、ピーマン、じゃが芋、かぶ、ラディッシュ、さつまいも、大根、つるなしインゲンの苗や種植えをし、栽培に挑戦した。かぶやラディッシュは2回収穫ができ、じゃが芋も育ちがよく大収穫であったが、トマトは色がつく前に烏やキジにつつかれてしまい、ほとんど収穫ができなかった。つるなしインゲンにも挑戦したが、植えた直後に種を食べられるなどして収穫までに至らなかったなどの失敗も経験した。今後も、いろいろな野菜があることを園

児と共に考え、植えたことのない野菜なども取り入れるなど、収穫体験から学びにつながるような充実した畑活動に取り組んでいく。年長児が主体となって栽培しているが、1歳児も畑を散策したり、2歳児は野菜の収穫も体験、3、4歳児は草取りなどの仕事を手伝ったりと、年齢に応じた関わりを持つことができた。また、職員も交代で草取りをするなど園全体で取り組んでいる。

天気の良い日は、園庭や散歩など、戸外活動の充実を図っている。室内では玩具や製作を中心とした活動を展開し、ホールでは運動遊び、リトミック、巧技台やなわとび等、遊び込める環境づくりを工夫し、園児の様子を見ながら発達に応じた遊びが保障されるよう環境を整えている。その都度、職員同士で話し合いながら環境の見直しも行い、より良い環境保育を整えるよう心がけた。

- ◎ 言葉＝保育教諭は、園児が自分の気持ちや意見などを相手に言葉で伝えられるように働きかけている。

毎日の「朝の会」や「お帰りの会」などの集会で、園児が手を挙げて発表する場を設け、全体の話や人の話を最後までしっかりと聴く態度を身につけられるように心掛けた。また言葉の発達を促すために、午睡前は毎日必ず紙芝居の読み聞かせの時間を設けており、その他にも絵本の読み聞かせをする機会を日常の生活の中で取り入れている。

- ◎ 表現＝表現活動として、未満児クラスは保護者参観日に「ミニ発表会」として歌や楽器、踊りなどを披露し、以上児クラスは「成道会」に向けて早めに計画を立て、ストーリー性にとんだ構成を取り入れ、取り組んでいる。

一年を通して音階やリズム打ち等、楽器の基礎を身につけると共に、音楽への興味・関心を引き出し、段階を踏んで演奏することへの意欲につなげている。3学期には、以上児クラスが各クラスで鍵盤ハーモニカや打楽器を使って合奏に取り組み、お別れ会や進級式に演奏した。今年は、3歳児も鍵盤ハーモニカに挑戦し、年齢に見合った曲で、無理なく演奏することができた。

3…教育及び保育の内容に関する全体的な計画及び評価

全体的な計画を作成し、教育課程に基づいて、年、月、週の指導計画を立てて教育及び保育を実践している。日々の保育については、未満児クラスと以上児クラスでそれぞれにミーティングで話し合いを行う場を設け、その内容を月末の職員会議で報告し、全職員が子どもの状況を把握できるように努めている。また、2歳児クラスは進級や移行を意識して12月より以上児クラスとのミーティングに加わった。子どもが無理なく移行でき、発達を促すより良い環境を整えられるようにしている。以上児クラスでは「教育面」を意識して話し合いを行っているが、まだまだ十分な知識と実践が伴わず充実した教育及び保育までに至らなかった。今後も、外部研修やキャリアアップ研修等で学んだ知識を保育教諭等で共有しあい、実践に活かせるように学び、職員の質の向上を図っていく。また保育教諭ひとり一人のモチベーションも高めていく。

4…健康及び安全

- ◎ 事故予防＝前年度に引き続き「事故防止委員会」を設け、主幹保育教諭と以上児リーダー、未満児リーダー、保育教諭の五人で「事故リスク軽減の為のチェックリスト」の確認と「イ

ンシデントレポート」の事故関連の検証をした。事故報告書2件を検証した結果報告と今後の対策についての話し合いもし、後日職員会議にて報告し共有した。また、危機管理研修に参加した職員からの研修報告を行い、危険を回避するための安全教育を実施した。

- ◎ 食物アレルギー＝現在、「卵アレルギー」の園児が1名。職員全体で共有し、アレルギーの園児に対して、トレーの色別や名前カードを用いて配慮していたが、卵の成分が入ったソーセイジドックを食べさせてしまい、アレルギー反応が出てしまった。保護者に連絡を取ると共にすぐに病院を受診。大事には至らなかったが、緊急に職員会議を開き職員同士で対処方法を改めて話しあった。食事の際は必ず職員がそばにつく、席を固定し写真を貼る。また、担任が責任を持って短時間保育教諭にも伝達するなど、危機感を持って対応することにした。食事やおやつは園児が席に着いてから、間違いの無いように配膳し、何重にもチェックする体制を取り入れている。今後も職員が必ずそばで一緒に食事を取り、誤食を防いでいく。
- ◎ 食育＝園児が栽培し収穫した野菜を給食調理に使って貰う事で、食材への興味や関心を引き出すようにしている。また、3歳以上児がカレーライスやフルーチェ作りを行うクッキング教室や、年長児のお泊まり保育での夕食材料を実際に購入して来るなどのお買い物体験も昨年同様行った。今年度は、お悟りを開かれた日を記念してケーキ作りをする等、調理体験や園児が食への興味が出るような計画を立てて実施した。毎日の給食では旬の食材を取り入れたメニューの充実や、セミバイキング式のランチタイムで、一人ひとりの食欲に合わせた盛り付け、そして食事中には調理担当者からのその日のメニューや食材についてのお話も引き続き行っている。おかわりの実施も行うようになり、一度食べた料理も「美味しかった」と好評で残食も以前より減っている。
- ◎ 感染症＝12月中旬より「インフルエンザB型」の発症があり年末にかけて園内で広がり、同時期より「おたふく風邪」の感染者も数名発症がみられた。年明けには終息し、1月～2月にかけては家族からの感染者が数名あったが、広範囲に及ぶことなく終息した。2月中旬「インフルエンザA型」に職員2名も感染が見られたが、他に感染することなく終息した。

5…保護者に対する支援

- ◎ 保護者＝クラス懇談や個人面談の他、要望があれば個々に保護者との話し合いの場を設けて、子育てに関する相談や依頼に適切に対応している。また、保育参加の機会を設け、保育教諭と保護者との相互理解と交流を深める場となっている。毎年参加している保護者も多い。今年度は60名の参加があった。
- ◎ 子育て支援＝クラス懇談を8月に行い、個人面談は11月から12月上旬にかけて行った。クラス懇談会では、毎年参加してくれる方や新入園児の保護者の参加が目立った。今回のクラス懇談会では研修で学んだ内容を用いて、「私をめぐる10の言葉」で保護者の考えや意見、そして子どもの長所、短所を織り交ぜながら、保護者と共通認識する機会として実施した。子育てに関する意見交換をしながら理解を深められるように努めている。また入所に関する問い合わせや、見学者が随時来園しているため、丁寧に園内の説明を行うことを心掛けるとともに、質問や要望にも適切に対応するようにしている。

6…職員の資質向上

- ◎ 一般常識＝全職員が書類の提出期限、就業規則などを守るように心掛けている。また、保護者や来客に対して好感がもてる対応であったり、仕事に適した身だしなみや心配りのあるマナーで仕事に臨んでいる。
- ◎ コミュニケーション＝全体としては、職員間で話し合うミーティングを密に設けることでお互いに知識の共有や保育の見通しを立てられるよう、協力体制が整っていた。職員は仕事を進める上で、上司に対しての報告、連絡、相談を実施し、些細な事でも不安や疑問があれば、普段から園長、主幹保育教諭に相談できる環境が整っている。
- ◎ 保育教諭の意欲・姿勢＝研修に参加した職員は研修報告書を提出し、職員会議で報告することで、全職員が知識を共有し、園の資質向上に繋げるように努めている。副主幹保育教諭として3名の職員がキャリアアップ研修に随時参加しているが、キャリアアップ研修に関しても同様の研修報告書のまとめや研修報告を実施している。未満児クラスの連携に関して、短時間保育教諭の協力姿勢が良く、園児への丁寧な援助や働きかけ、他の常勤保育教諭にも寄り添い協力する姿勢が充実していた。満3歳児・以上児クラスに関しては職員間での連携や報連相を忘れずに心掛けるなど、基本的な事を若手保育教諭と話し合い、協力姿勢に磨きをかけていく必要がある。
- ◎ 指導力＝職員の経験年数に限らず、指導力に関して力量の差があるが、職員の力量を把握しながら、一人ひとりの良い面を活かして教育及び保育に力を注げる体制を整えていく。実習生の指導には、実習クラスの担当は丁寧に指導しており、共に学びながら実践に役立つように適切な助言を実習ノートに記載している。

<今後の課題>

- ◎ 新年度、「サービスマニュアル」の読み合わせをして再確認していく。(平成30年4月中)
- ◎ 常勤保育教諭、短時間保育教諭、看護師、それぞれの考えを意見交換できる場を設定する。(短時間保育教諭は会議に出席しない為、情報伝達や意見交換する方法を検討する)
- ◎ 保護者への配慮(連絡・掲示物・信頼など)を丁寧に行い、コミュニケーションを密に図るよう努める。
- ◎ 実習生の受け入れもあり、全職員が初心に戻って「環境保育」を再確認しながら教育及び保育を行う。
- ◎ 教育及び保育の充実を図るため、改訂された指針を元に園児が主体的に活動できるよう、見直していく。(満3才以上児)
- ◎ 全職員がより良い人間関係を構築し、仕事にゆとりを持って更に質の良い教育及び保育を目指す。
- ◎ チームの一員として、自分の意見を遠慮せず周りに発信していく
- ◎ 幼年消防から寄贈していただいた「桶胴太鼓」を活用して、園児の和太鼓に取り組む意欲と自信を持った発表につなげていく。
- ◎ 行事や職務分担を見直して、仕事量の不平等差をなくし仕事内容の軽減について検討する。
- ◎ 全体的な計画やアプローチカリキュラムの作成に関して、平成30年度執行の指針改訂に基づいた新しいひな型(様式)を用いて作成していく。